

富山大橋

都市計画道路呉羽町袋線
(県道富山高岡線)



平成24年3月



新しい富山大橋

富山大橋は、旧橋の歴史を受け継ぎ、利用者に優しく、
景観にも配慮した橋に生まれ変わりました

設計の基本方針は、富山大橋計画検討委員会（委員長：篠原修 東京大学名誉教授）により検討され、この方針に基づき新しい富山大橋の整備を進めました

設計の基本方針	整備内容
●立山連峰の眺望と調和した橋梁形式を基本とする	○背景の立山連峰の眺望を阻害しない鋼桁橋を採用
●これからも市民に愛される絵になる橋の形とする	○橋桁の高さは、旧橋と同じように橋脚間で変化 ○高欄支柱にガラスパネルを設置 ガラスパネルには近隣の小学生が製作したガラス玉を取り付け
●親しまれる橋となるよう、人がくつろぎ、安らぐことのできるバルコニーなどを整備する	○立山連峰や川面を眺めることのできるバルコニーを片側2箇所配置 ○人のたまり場となる橋詰め広場を橋の両側に配置



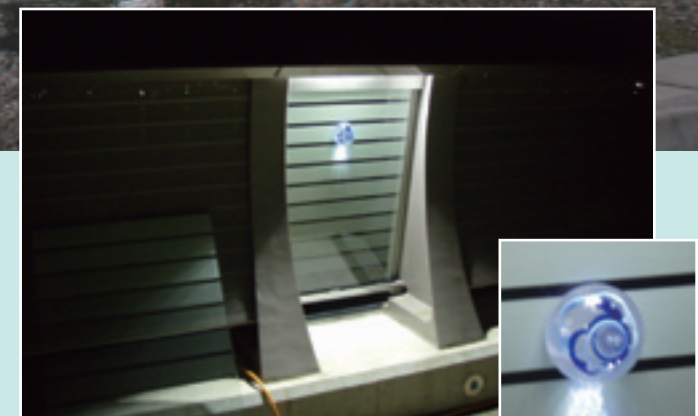
バルコニー



橋詰め広場



橋面



高欄LED照明に照らされる
ガラスパネルとガラス玉

富山大橋の歴史

明治42年(1909)神通新大橋架橋(初代富山大橋)



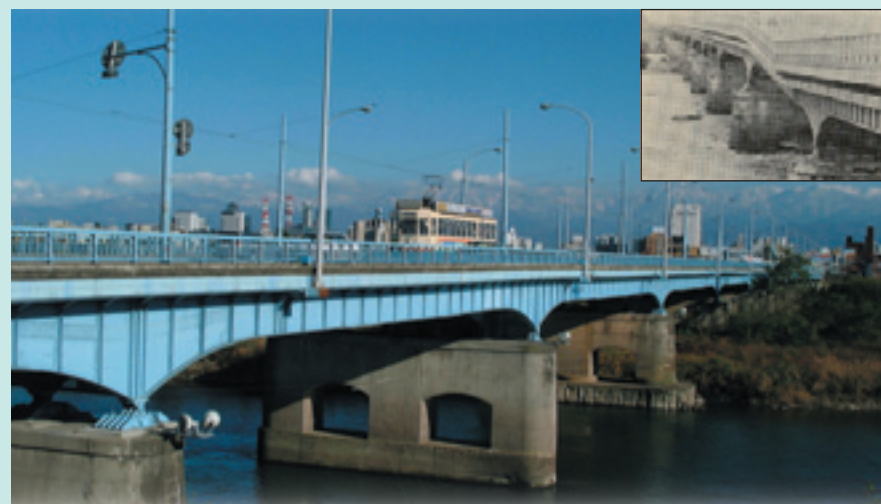
この地に最初に橋が架けられたのは明治42年で、神通川西岸に移駐してきた陸軍歩兵連隊と市街地を結ぶ道路開設に伴い架橋されました。当時は木造橋(幅員約6m)で「神通新大橋」と命名されましたが、庶民の間では「連隊橋」の愛称で親しまれました。

昭和11年(1936)2代目富山大橋竣工

昭和に入ると、これまでの木造橋を、鉄やコンクリートでできた永久橋に架け替える整備事業が始まりました。富山大橋は、経済恐慌等の影響により計画が延期されながらも、昭和11年4月、鋼製の橋(ゲルバー式上路鋼桁橋、幅員16m)に架け替えられました。



平成18年(2006)当時の富山大橋



昭和44年7月2日、梅雨前線の降雨により神通川が大増水し、富山大橋の西側橋脚が沈下しました。一時全面通行止めとなり、県民生活に甚大な影響を及ぼしましたが、被災1ヶ月後に仮復旧、翌年6月に全面復旧しました。

その後平成5年にライトアップ設備が取り付けられ、夜景も楽しめる橋となりました。

富山大橋は市電が通る郷土の名橋として、広く県民に親しまれてきました。

工事の経緯

工事着手前(起工式)



(平成18年10月撮影)

完成



(平成24年3月撮影)

橋脚施工中



(平成19年12月撮影)

アスファルト舗装・路面電車道施工中



(平成23年11月撮影)

橋脚・橋台完成



(平成20年6月撮影)

床版コンクリート施工中



(平成22年12月撮影)

橋桁送り出し施工中



(平成21年4月撮影)

床版パネル施工中



(平成22年7月撮影)

事業の概要

都市計画道路呉羽町袋線(県道富山高岡線)は、県都富山市と高岡市を最短経路で結ぶ大動脈であり、街の骨格となる重要な幹線道路です。1日あたりの自動車交通量は、富山大橋付近で約3万台あり、現在の2車線道路では朝夕はもとより日常的に交通渋滞が起きています。

また、2代目富山大橋は昭和11年に架けられたもので、老朽化が進んだことや、近年の車両の大型化を考えると通行の安全性を確保するのが難しい状況でした。

このため、富山県では平成11年から以下の方針により富山大橋の架け替え事業を進めてきました。

車道の4車線化

車道を4車線化し、交通渋滞の緩和を図ります。

歩道幅員の拡幅

歩道幅員を2mから5.5m(橋梁部4.5m)に広げ、歩行者・自転車利用者の安全性を確保します。

路面電車の複線化

近年、人や環境にやさしく街の活性化に寄与する交通手段として全国的に注目されている路面電車の軌道を、騒音や振動を抑制する制振軌道(樹脂固定軌道)により複線化します。

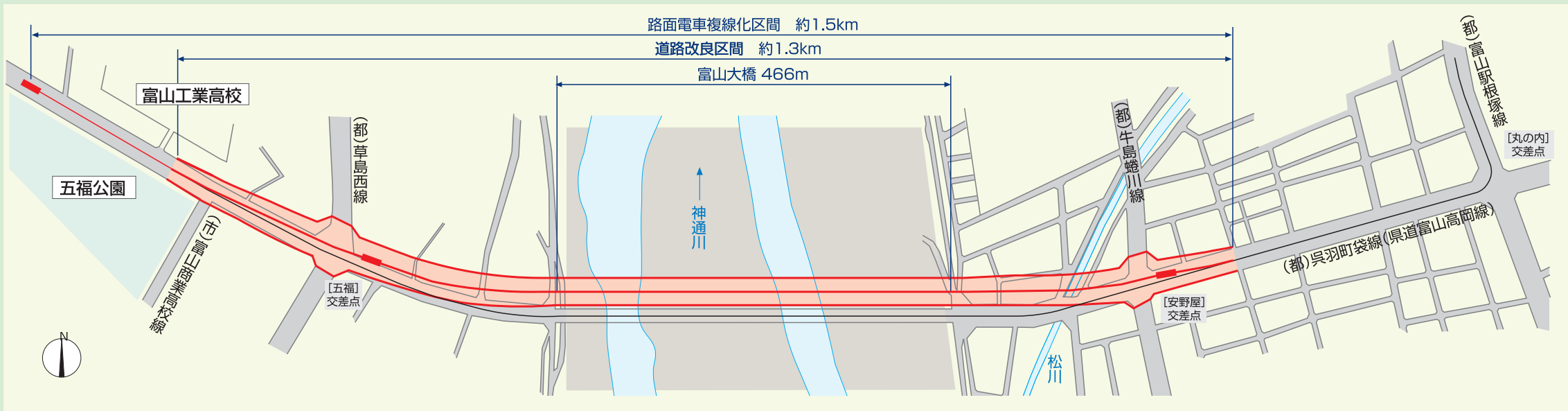
富山大橋の安全性向上

新しい富山大橋は、洪水時でも川の流れをできるだけ障害せず、かつ、阪神淡路大震災クラスの地震にも耐えうるよう整備します。

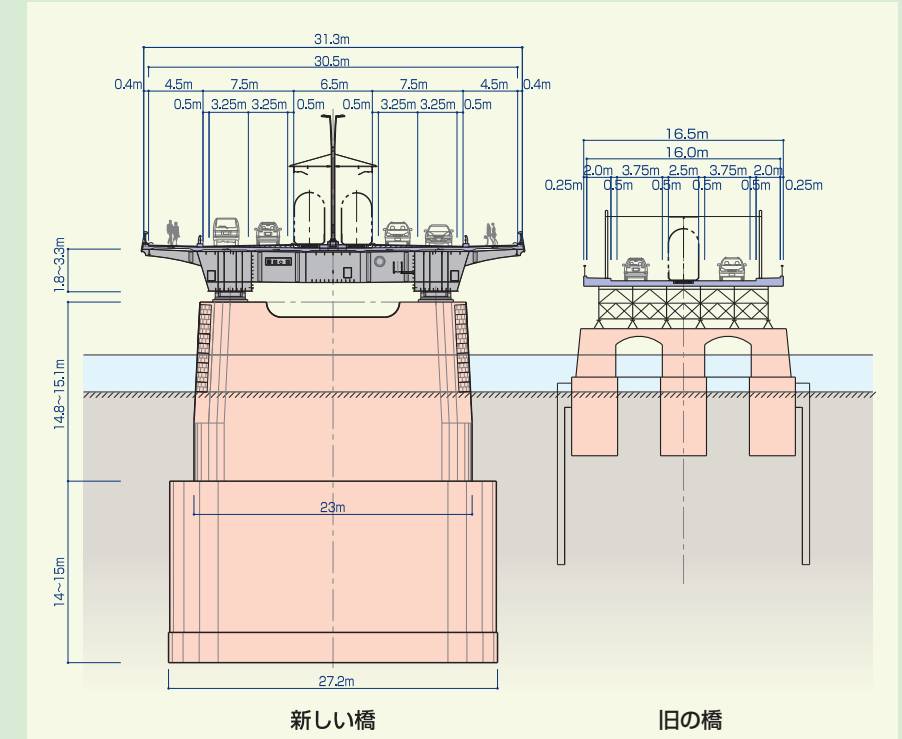
新しい富山大橋の開通により、安全で円滑な交通が確保されるとともに、富山市中心部のより一層の活性化が図られることが期待されます。

- 路線名：都市計画道路呉羽町袋線(県道富山高岡線)
- 事業箇所：富山市五福～安野屋地内
- 事業延長：道路改良区間 約1.3km(うち橋梁部466m)
路面電車複線化区間 約1.5km
- 事業期間：平成11年度～平成26年度
- 総事業費：約250億円

計画平面図



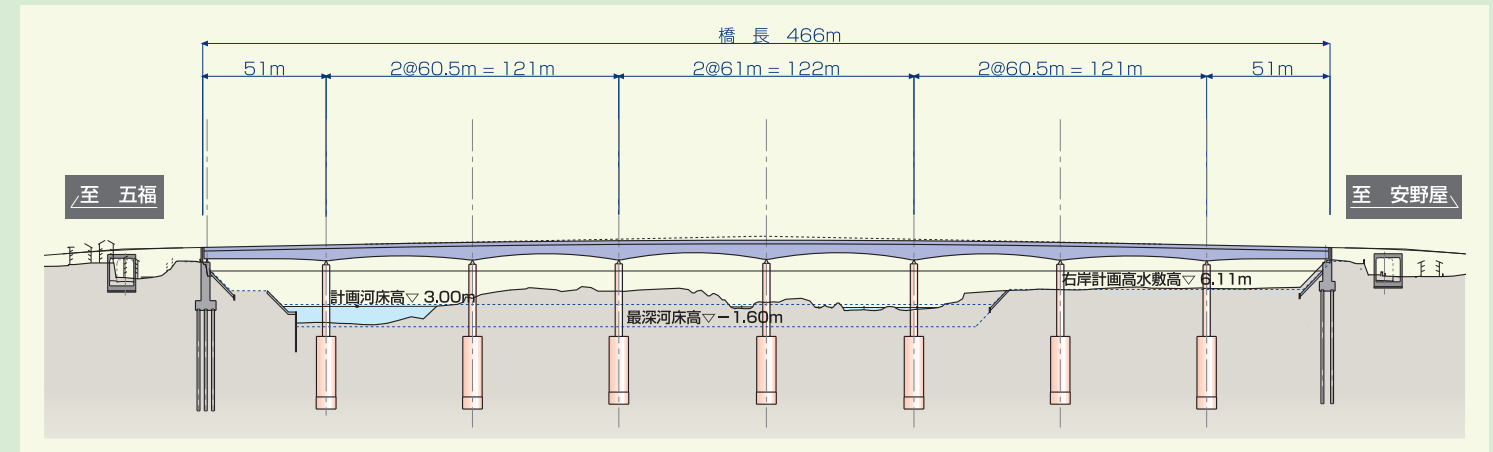
橋梁横断図



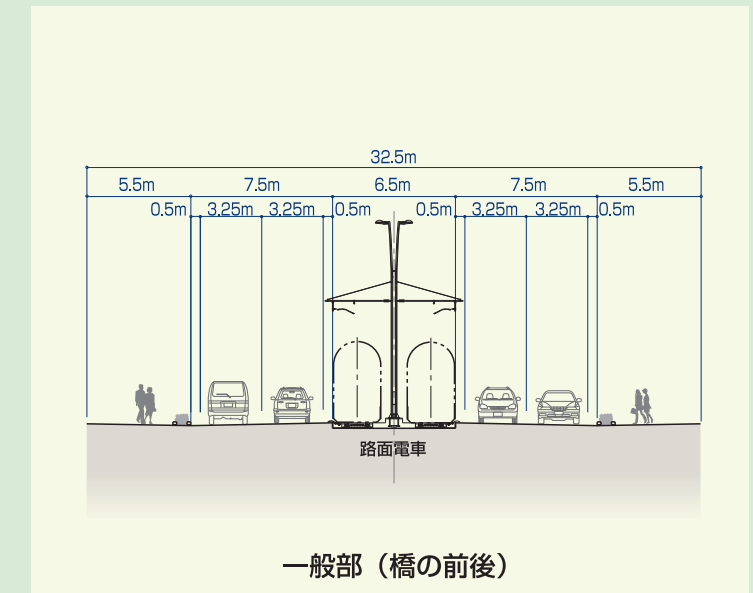
富山大橋の概要

- 上部工形式：8径間連続鋼非合成箱桁
- 下部工形式：逆T式橋台、壁式橋脚
- 基礎形式：橋台-杭基礎、橋脚-ケーソン基礎
- 橋長：466m
- 幅員：総幅員30.5m
(車道)2×7.5m(片側2車線)=15.0m
(自転車歩行車道)2×4.5m=9.0m
(路面電車道)6.5m
- 活荷重：B活荷重

橋梁側面図



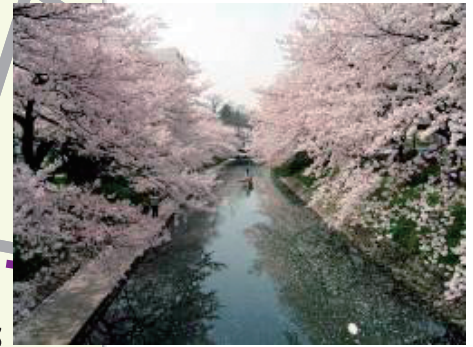
標準横断図



位置図



ふ かんうん が かんすいこうえん
富岩運河環水公園



松川と桜並木



市内電車環状線(セントラム)



TOPICS

富山大橋本体着手時(平成18年)に、1年生だった近隣の小学生に対し、完成まで毎年「勉強会」を開催し、橋に親しみと理解を深めてもらいました。

また、平成23年6月には、近隣の小学生を対象にアスファルト舗装する前のコンクリート面(床版)に「未来」をテーマに思い思いの絵を描く「床版お絵かき大会」を実施しました。

